

「2022 平和行動in沖縄」を終えて

連合北河内地域協議会 新関西製鐵労働組合星田支部 中渡瀬 藤吾

今回「平和行動in沖縄」に参加するにあたり「本土復帰 50 年」という節目の年に、このような機会を与えて頂き、連合大阪はじめ地域・地区協議会の皆様に感謝申し上げます。

私にとって平和行動への参加は、3年前の「2019 平和行動in広島」以来2回目、沖縄に関しては、観光を含め初めて訪れることになります。

沖縄が本土に復帰した 50 年前、私は 5 歳で復帰に関しての記憶は有りませんが、中学生だったと思いますが、車が右側通行から本土と同じ左側通行へと変わったニュースは、今でも鮮明に覚えています。

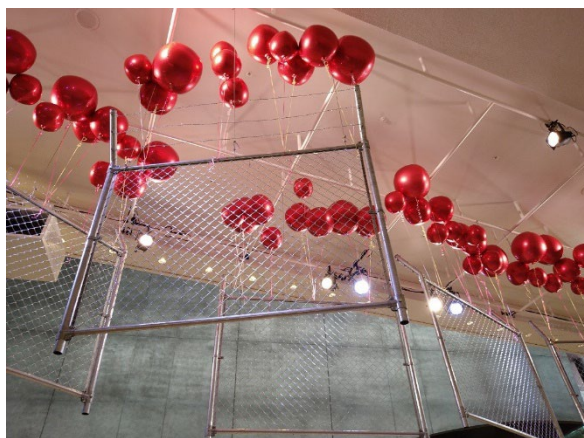
何故、『6月 23 日』に合わせて「平和行動in沖縄」を行うのか私は知りませんでした。『6月 23 日』という日は太平洋戦争の末期、日本で唯一地上戦のあった沖縄で日本軍の総司令官「牛島満司令官」が自決し、組織的戦闘を終えた日が 1945 年 6 月 23 日であり、沖縄ではその日を『恒久平和願う日』として「慰霊の日」と定めたそうです。

以下、日程（行程）に沿って感じたことを記載致します。

・第 1 日目 6 月 23 日（木）「対馬丸記念館～平和オキナワ集会～」

那覇空港到着後、対馬丸記念館へ。疎開船であった「対馬丸」は、アメリカの潜水艦の魚雷によって撃沈。乗船していた約 1,600 人のうち 800 人以上が学童であったとのこと…。疎開へと送り出した親の気持ちにしてみれば『子供には生き延びて欲しい』との思いであったことは間違いないでしょう。僅かに 59 人が救助されただけで、現在も対馬丸の船体と遺体は海の底に眠ったままとなっています。

午後から「平和オキナワ集会」へ出席。第 1 部 基調講演とし「沖縄の施政権返還 50 年と日米地位協定」講師の法政大学法学部「明田川教授」の講演を拝聴し、第 2 部 平和式典の主催者である連合「芳野会長」の挨拶をはじめ、原爆投下に合わせた 8 月 5 日～6 日の日程で行われる「平和行動in広島」へピースリレーが行われた。私が会場が一番印象に残ったのが、会場の『那覇文化芸術劇場 なは一と』のロビー天井から吊るされていたオブジェでオブジェについて特に説明はなかったが、フェンスに赤い風船が付けられたものでした。フェンスが米軍基地を表現し、赤い風船で宙に浮いてことで「沖縄から基地が無くなること」を、表現しているように感じました。





・第2日目 6月24日(金)「ピース・フィールドワーク (Cコース)」

最初に向かった先が「糸数アブチラガマ」、もともと糸数集落の避難豪だったものを日本軍の陣地豪や倉庫として使用され、米軍が上陸した後は南風原陸軍病院の分室となった。そこには、軍医や看護婦をはじめとし、ひめゆり学徒隊も配属され、全長 300m 足らずの暗い豪の中に多数の重傷者が担ぎ込まれ 1,000 人近い負傷者で埋め尽くされ、まさに地獄のような有様だった事だろう。

昼食後、「魂魄の塔」へ、戦後復興生活を始めるが当時、戦争で犠牲になった遺体が各地に散乱していた。米軍管理下での遺骨収集は許されていなかった。そんな中、当時の真和志村長だった「金城和信氏」が米軍と交渉し、許可を得て住民による遺骨収集が始まった。集められた遺骨は約 35,000 体となり、積み上げられた遺骨の周囲を整備し骨塚とし、「魂魄の塔」と名付けた。現在、遺骨の殆どが国立戦没者墓苑に移動され合祀されているが、「魂魄の塔」への参拝者は今も絶えることがないそうです。

次に平和祈念公園へ、前日に「沖縄全戦没者追悼式」が開催された場所である。公園内にある「平和の礎 (へいわのいしじ)」、沖縄戦終結 50 周年に完成した平和の礎には世界の恒久平和を願い、国籍や軍人・民間人を問わず、沖縄戦で亡くなったすべての人々の氏名を刻んだ記念碑である。現在でも毎年名前は増えているそうです。



この日、最後に訪れたのが「ひめゆりの塔」(資料館)、ひめゆり学徒隊のことは何となくは知っている程度でしたが、現地へ向かう道中、ピース・ガイドの方の説明で、「沖縄県立師範学校女子部」と「沖縄第一高等女学校」の生徒たちによって編成された看護部隊「ひめゆり学徒隊」の、『ひめゆり』の由来をはじめと知りました。彼女たちは最後まで軍とともに行動し、多くの少女たちが激戦の中砲弾に倒れ、或いは自決を余儀なくされたそうで

す。また、生き残った方々も「多くの仲間・友人が亡くなった中で、自分だけが生き残ってしまった。亡くなった友人の親御さんに申し訳ない。」と、大変苦しんだと聞きました。子供を持つ親としてはどちらの立場でも辛い、胸が押しつぶされそうな「苦しく悲しい」耐え難い思いでした。

・第3日目 6月25日(土)「佐喜真美術館～米軍基地見学へ」

佐喜真美術館での『沖縄戦の図』(丸木伊里・俊 作)を前に、この絵についての説明を受けた。丸木ご夫妻は、沖縄の地上戦の体験から学ぶ必要があると考え、沖縄の地で体験者の話を聞き、モデルになってもらい「沖縄戦の図」を書き続けたそうです。絵の説明に「集団自決」(強制集団死)このようなカッコ書きも添えてあった。そしてこの絵の左下に書いてあった言葉がとても印象的でした。

恥ずかしめを受けぬ前に死ね	手りゅうだんを下さい
鎌で鋏でカミソリでやれ	親は子を夫は妻を
若ものはとしよりを	エメラルドの海は紅に
集団自決とは手を下さない虐殺である	伊里 俊

この佐喜真美術館の屋上から米軍の普天間基地を見ることが出来た。普天間飛行場は海兵隊のヘリコプター基地でオスプレイも24機配備されているそうです。

次に、「瀬嵩の浜」へ向かい辺野古の埋め立てを対岸からの見学となります。現地へ向かう高速道路をバスで移動中、バスの上空をオスプレイが通過した、皆が口にした言葉が「近っ!」、同乗していたバスガイドの方も「こんな近くでオスプレイを見たのは私も初めてです。」との事であった。

普天間の代替基地建設予定地の名護市の辺野古は、国際保護獣であるジュゴンの生息地である。基地建設に必要な埋め立てに関し、沖縄県民投票では反対票が40万票、投票総数の7割を超えているにも関わらず、民意を無視し埋め立て工事は強行されました。

午後から「道の駅かでな」展望台より嘉手納基地の見学、嘉手納基地は空軍の飛行場で戦闘機も多く離発着する。展望台には騒音測定器が設置されており、防音設備の施設でもその爆音は相当なものらしい。それが夜間訓練となると、とても寝ていられないのは当然と言えるでしょう。

以上の行程で「平和行動in沖縄」は無事終了しました。

平和学習含め全体を通して感じたことは、平和教育とは如何に大切か改めて思いました。私の出身地が「特攻隊基地」・「震洋隊基地」の有った鹿児島県の知覧であり、平和教育には力を入れていたと思います。小学生の時、先生に言われた「決して戦争を美化してはいけない。戦争を起こす理由に正当な理由はない。」との言葉は今でも覚えています。

現在のロシアによるウクライナ進攻や、中国による南シナ海の領有権・資源開発問題を取り上げ、いきなり「防衛費の増額」や「憲法改正」との論調になるのはナンセンスだと私は思っている。

平和学習会で講師を務めて下さった秋山美代子さんが講演の最後に「皆さん、平和のた

めに何をしますか？」の問いに考えた…。『えっ、何をする…？ なんだろう？』

秋山さん曰く、「あいさつですよ。」「私はそう思っています。」「挨拶は人の心を和ませるでしょう？」なるほど、妙に納得出来る。基本的にはそんな単純な事なのかも知れない…。

最後に今回、平和学習会では貴重な話を聞く事が出来た、平和行動では現地の沖縄で見聞出来たことに対し重ね重ねお礼申し上げます。

以上